

単音節言語から見た「語」の多面性*

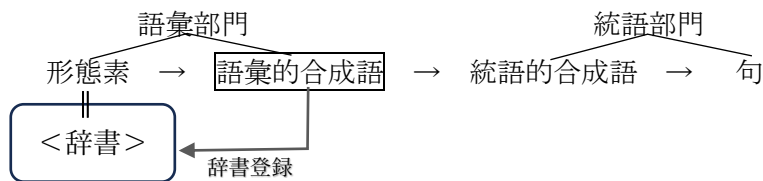
沈力 (同志社大学)

lshen@mail.doshisha.ac.jp

1. 語形成に関する理論的モデルとその問題点

✓両立論仮説

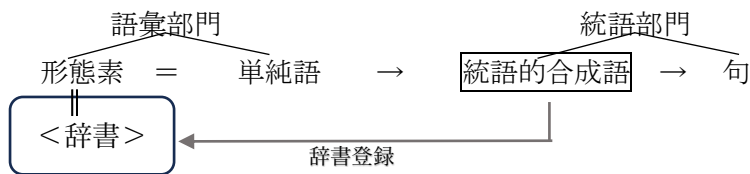
(1) 語形成に関する両立論 : (Cf. Baker1988, 影山 1993:6)



影山太郎(1993:6)は「語彙部門と統語部門の双方に語形成を認める」と主張している。

✓言語類型論の観点：単音節言語の語形成は統語部門で形成されることを提案する。

(2) 単音節言語における統語的語形成仮説 : (Cf. 沈・韋 2023:41)



2. 多音節言語と単音節言語における「語」の韻律的相違

✓多音節言語における合成語は語調統合されるのに対して、単音節言語における合成語は語調調整されなければならない。合成語は結束性(cohesiveness)を持つ連続体である。

✓その結束性は、語調 (word prosody) を持つ言語では、「語調統合(Prosody Integration)」または「語調調整(Prosody Adjustment)」で標示される (Cf. 窪菌 1995:54、早田 1999:63)。

(3) 語調統合(PI) : $\alpha^{wp} + \beta^{wp} \rightarrow \alpha\text{-}\beta^{wp}$ 日本語

a. [ta'tsu](断つ)+[ki'ru](切る) \rightarrow [tachi-ki'ru](断ち切る)

b. [na'na](七)+[ne'n](年) \rightarrow [nana'n-en](七年)

(4) 語調調整(PA) : $\alpha^{wp} + \beta^{wp} \rightarrow \alpha^{wp'}\text{-}\beta^{wp}$ 馬山チワン語¹

a. [za:n⁴²](ハウス)+[ha:⁴²](グラス) \rightarrow [za:n²¹ ha:⁴²](グラスハウス)

b. [ma:³⁵](犬)+[lyg^{3u}](カブ) \rightarrow [ma:³³ lyg^{3u}](子犬)

* 本発表内容については、窪菌晴夫氏、由本陽子氏、長屋尚典氏から貴重なご意見を頂いた。また本稿は JSPS 科研費 (23H00627、19H01261) による研究成果の一部を報告したものである。

¹ チワン語 (Zhuang language) は、中国の少数民族チワン族(話者は 1600 万人)の言語であり、シナ・チベット語族-タイ・カダイ語支 (Tai-Kadai branch) に属する(cf. 王 2007:1100)。馬山チワン語はチワン語の北部方言の 1 つであり、使用人口は約 4 1 万人である。

(5) 北京語における PA 合成語

- a. [fan²¹⁴] (反)+[xing²¹⁴] (省) → [fan³⁵ xing²¹⁴] (反省する)
- b. [jian²¹⁴] (检)+[tao²¹⁴] (讨) → [jian³⁵ tao²¹⁴] (点検する)

(6) 北京語における PI 合成語

- a. [gu²¹⁴] (鼓=叩く)+[dao²¹⁴] (捣=攻める) → [gu²¹⁴-dao⁰] (いじる)
- b. [zhuo³⁵] (琢=彫る)+[mo³⁵] (磨=磨く) → [zhuo³⁵-mo⁰] (熟考する)

✓単音節言語における合成語の結束性は多音節言語の合成語より緩いことがわかる。

3. 馬山チワン語の語調調整 (=連続声調:Tone Sandhi)と語形成

✓馬山チワン語の PA 連続体が統語的韻律語であることを明らかにする。

	PA 語調統合(PI)	語調調整(PA)
日本語	✓	
馬山チワン語		✓
北京語	(✓)	✓

✓典型的単音節性 (馬山チワン語) と非典型的単音節性 (北京語)

(7)	馬山チワン語	北京語
A. 単音節限定	✓	✓
B. 声調付与	✓	(✓)
C. 構成素をなす	✓	(✓)

(Cf.Sapir1921:112, Bloomfield1933:182, Chao1968:139, 沈 2023:51,沈&韋 2023:41, 徐 2005:104)

✓馬山チワン語では、合成語を作る際に連続変調が利用される。

(8) 連続変調の音韻的条件

x と y という 2 つの声調が線状に連鎖する場合、先行声調 x が当該音階範囲内で最低の調値に変化する。 $T_{[-lowest]} \rightarrow T_{[+lowest]} / __ \sigma^n$

表 2：八声調体制と連続変調

音階	舒声調		促声調	
高音階	55 調	ʂa: ⁵⁵ (待つ)	5u 調 ↓(3u)	təp ^{5u} (肝)、ʔit ^{5u} (老)、pək ^{5u} (野菜)
	35 調	ka: ³⁵ (足)		
	33 調	kwa: ³³ (過ぎる)		
低音階	42 調	hɔn ⁴² (煙)	3u 調 ↓(1u)	ləb ^{3u} (立つ)、pid ^{3u} (蟬)、pəg ^{3u} (苦い)
	212 調	lm ²¹² (舌)		
	21 調	ta: ²¹ (川)		

- (9) a. 碗[ŋwa:n⁵⁵] +陶[θik^{5u}] →陶器 [ŋwa:n³³ θik^{5u}]
- b. 賣[ka:j³⁵] +買[ʂəu²¹²] →賣買 [ka:j³³ ʂəu²¹²]
- c. 菜[pək^{5u}] +白[ha:w³⁵] →白菜 [pək^{3u} ha:w³⁵]

- d. 名[mi:ŋ⁴²] + 称[ʒo:²¹] →名称 [mi:ŋ²¹ ʒo:²¹]
 e. 刀[ʒa:²¹²] + 菜[pək^{5u}] →包丁 [ʒa:²¹ pək^{5u}]
 f. 子[lɤg^{3u}] + 孫[la:n³⁵] →まご [lɤg^{1u} la:n³⁵]

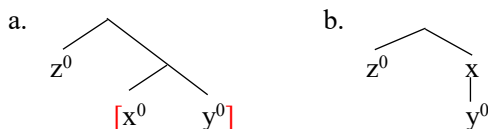
✓ところが、連続変調はさらに、(10)のような統語的条件が必要である。

(10) 連続変調の統語的条件：

単純語 x と y が統語構造で第一姉妹関係 (First Sister Relation) を成していれば、その x と y の連続体には連続変調が生起する。

✓統語的合成語に関する Selkirk(1982: 37)の The first Order Projection Condition(FOPC)を受け入れれば、連続変調を持っている連続体は統語的合成語として見なすことができる。

(11) 統語構造における第一姉妹関係



A. Complementation の関係

- (12) 他動詞 a. kuk^{5u} [kɤŋ^{35_33} mo:w³⁵] kwa:³³ ‘虎は豚を食べた。’
 tiger eat=pig PERF
 b. kuk^{5u} kɤŋ³⁵ [mo:w^{35_33} huŋ³⁵] ‘虎は大きい豚を食べる。’
 tiger eat pig=big
- (13) 対格動詞 a. [ta:j^{35_33} huŋ⁴²] kwa:³³ ‘人が死んだ。’
 die=person PERF
 b. huŋ⁴²_i [ta:j³⁵ ti] kwa:³³ ‘人は死んだ。’
 person die PERF
- (14) 意志動詞 a. ma:³⁵ ni:n⁴² kwa:³³ ‘犬が寝た。’
 dog sleep PERF
 b. ʒoŋ^{3u} he:w³⁵ kwa:³³ ‘鳥が鳴いた。’
 bird chirp PERF
- (15) 状態動詞 a. [?]da:ŋ³⁵ huŋ⁴² ‘体が痒い。’
 body itchy
 b. [?]te:³⁵ [?]da:ŋ³⁵ huŋ⁴² ‘彼は体が痒い。’
 3sg body itchy

★前置詞句と前置詞語

- (16) a. mɤŋ⁴² [ta:^{55_33} ləu³⁵] to:w⁵⁵ ‘君はどこから来た?’
 2sg from=where come
 b. mɤŋ⁴² ta:⁵⁵ [ki:^{42_21} ʒəu⁴²] to:w⁵⁵ ‘君はどんな所から来た?’
 2sg from place=what come

★類別詞語と類別詞句

- (17) a. ʈɔŋ³⁵ [tu:⁴²⁻²¹ ma:³⁵] ‘二匹の犬’
 two CL=dog
 b. ʈɔŋ³⁵ tu:⁴² [ma:³⁵⁻³³ me:²¹] ‘二匹の雌犬’
 two CL dog=female

B. Modification の関係

- (18) a. tu:⁴² [ma:³⁵⁻³³ ?dɔm³⁵] ?i:³³ lo:w⁴² ‘一匹の小さくて黒い犬’
 CL dog=black small IND
 b. [ka:³⁵⁻³³ pa:j⁵⁵] [tu:⁴²⁻²¹ ko:w³⁵] ‘私のチキン’
 foot=walk LN(GEN)=1sg
- (19) a. te:³⁵ [nɪn⁴²⁻²¹ kwa:j⁴²] kwa:³³ ‘彼は遅く寝た。’ [様態副詞]
 3sg sleep=late PERF
 b. ki:w⁴² ʂu:ŋ⁵⁵ ho:w⁵⁵ kwa:³³ ‘ボールは全部入った。’ [モーダル副詞]
 ball all enter PERF

- ✓馬山チワン語では、連続変調が統語構造の第一姉妹関係の連続体にしか生起しないことから、馬山チワン語の韻律的合成語は統語構造のもっとも小さい連続体であると言える。

4. 北京語における PA 合成語と PI 合成語

- ✓北京語は非典型的な単音節言語であるため(cf. (7))、PA 合成語だけではなく、PI 合成語も観察される。

表 3：北京語の PI 合成語と PA 合成語

例	構成	語調統合(PI:轻声化)	語調調整(PA:TS)
反省(反省する)	fan ²¹⁴ + xing ²¹⁴		fan ³⁵ - xing ²¹⁴
鼓搗(いじる)	gu ²¹⁴ + dao ²¹⁴	gu ²¹⁴ - dao ⁰	

- ✓この節では、北京語の PA 合成語は統語的合成語であり、PI 合成語は語彙的合成語であることを提案する。

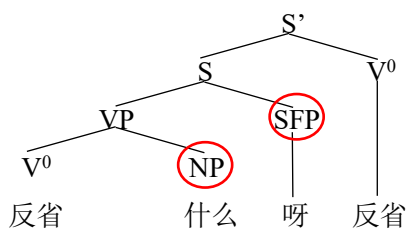
4.1. 動詞分離規則(Verb-Separation-Rule)による PA 合成語の二次派生

- ✓ここで、VSR が適用できるか否かを通じて、PA 合成語は統語レベルでの二次派生を許容するが、PI 合成語はそれを許容しないことを示していく。
- ✓中国語の口語体における「什么(what)」で不満を表す「論難構文」(cf. 邵敬敏 1996)。
- (20) 甲: 你 反省 一下 自己 吧。 ‘君は自分自身を反省しなさい。’
 2sg reflect one-CL yourself SFP
 乙: a. 反省 什么 (呀) 反省! ‘ナニガ反省だ。’ 動詞コピー
 reflect what SFP reflect
 b. [反 什么 省] (呀)! ‘同上。’ 動詞分離
 reflect=what=reflect SFP

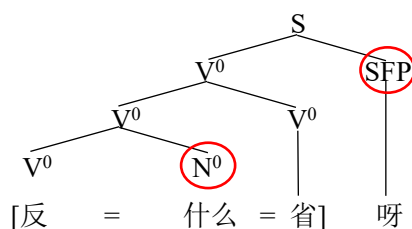
- ✓当該構文では、不満の原因が当該事件を表す動詞にあることを強調するために、2つの戦略がある。一つは動詞全体を文末へコピーする。もう一つは合成動詞の後項を目的語

の後に移動するということである(Cf. 沈 2006, 蔡 2014)。

(21) a. Pure syntactic Str.



b. Morpho-syntactic Str.



✓根拠 1 : 目的語の位置に「語」しか来られない。

- (22) a. 反省 什么 自己 呀 反省。 ‘ナニガ自分を反省するダ。’ 5/5
 reflect what myself SFP reflect
 b. *[反 什么 自己 省] 呀! ‘同上’
 reflect = <what myself> = reflect SFP

✓根拠 2 : 句末助詞「呀」は 2 つの動詞の間に挿入できない。

- (23) a. *[反 什么 呀 省]! ‘ナニガ反省ダ。’ 0/5
 reflect=what=<SFP>=reflect
 b. [反 什么 省] 呀! ‘同上。’ 5/5
 reflect=what=reflect SFP

✓根拠 3 : 「動詞分離」と「動詞コピー」は共起することができる。

- (24) a. [反 什么 省] 呀 反省。 ‘ナニガ反省ダ。’ 3/5
 reflect=what=reflect SFP reflect
 b. [反 什么 省] 呀 反(省)。 ‘同上。’ 3/5
 reflect=what=reflect SFP reflect

下記の三つの文法関係を持つ PA 合成語には程度差があるが、VSR が適用可能である。

- (25) a. Coordination: 检讨(examination)、讲解(explain)、反省(introspection)
 b. Resultative: 减少(decrease)、喊醒(wake up)、打倒(overthrow)
 c. Modification: 改选(re-election)、死守(defend to the death)、海选(audition)

4.2. 中国語における PI 合成語と VSR

✓PI 合成語の V2 は轻声(無声調)なので、統語構造の語彙範疇の位置に生起できない性質を持っている。よって、VSR が適用できないと予想される。

(26) PI 合成語 : coordination

- a. 鼓捣[gu²¹⁴-dao⁰](いじる)、拾掇[shi³⁵-duo⁰](片付ける)
 b. 研究[yan³⁵-jiu⁰](research) or 研究[yan³⁵-jiu⁵⁵](research)

- (27) 甲 : 咱 得 琢磨 琢磨。 ‘私たちはよく考えなくちゃ。’
 Ipl must think=think
 乙 : *琢 什么 磨 呀。 ‘ナニガ考えるダ。’
 think=what=think SFP

- (28) 甲：咱 得 研究 一下。 ‘私たちはちょっと検討しなくちゃ。’
 Ipl must research one-CL
- 乙：a. *研 什么 究(jiu⁰) 呀？ ‘ナニガ研究だ。’ (1/5)
 research=what=research SFP
- b. 研 什么 究(jiu⁵⁵) 呀？ ‘ナニガ研究だ。’ (4/5)
 research=what=research SFP

5. 結論

✓馬山チワン語は典型的な単音節言語なので、当該言語の合成語は統語部門で形成されていることを議論した。

—馬山チワン語の合成語は PA 合成語のみであり、PI 合成語はない。

—ほとんどの PA 合成語は、第一姉妹関係の制約を受ける。

✓北京語は非典型的な単音節言語なので、当該言語の合成語は、基本的に統語部門で形成されるが、語彙部門で形成されることもあることを議論した。

—PA 合成語は動詞分離規則 ($[x-y]_v \rightarrow x=\text{what}=y$) が適用できる。

—PI 合成語は動詞分離規則 ($[x-y]_v \rightarrow x=\text{what}=y$) が適用できない。

✓Generalized Lexical Hypothesis (Cf.Lapointe1980: 8)を受け入れれば、典型的単音節言語における合成語は基本的に統語レベルで形成されたものであるのに対して、非典型的単音節言語では、PA 合成語は統語的合成語であるが、PI 合成語は語彙的合成語であると言える。

略号・記号一覧

-: 語彙的合成語, =: 統語的合成語, □ⁿ: 声調調値, PERF: 完了標識, CL: 類別詞, SFP: 文末助詞, NEG: 否定辞, IND: 不定詞, GEN: 属格, LN: 形式名詞, 1, 2, 3: 人称, sg: 単数, pl: 複数

参考文献

- Baker, Mark. C. 1988 *Incorporation--A Theory of Grammatical Function Changing*, The University of Chicago Press.
- / Bloomfield, Leonard. 1933. *Language*. New York: Holt. / Chao, Yuen-Ren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*, University of California Press, Berkeley, California. / 早田輝洋. 1999. 『音調のタイポロジー』. 大修館書店. / 影山太郎. 1993. 『文法と語形成』東京：ひつじ書房. / 窪園晴夫. 1995. 『語形成と韻律構造』くろしお出版. / Lapointe, Steven. 1980. *A Theory of Grammatical Agreement*. Ph.D. Dissertation. University of Massachusetts, Amherst. / Sapir, Edward. 1921. *Language: An introduction to the study of speech*. New York: Harcourt, Brace and company. ISBN 4-87187-529-6. Selkirk, Elizabeth . 1982. *The Syntax of Words*. MIT Press. / 邵敬敏. 1996. 『現代漢語疑問句研究』上海：華東師範大学出版社. / 沈力. 2006. 「北京語における動詞の”コピー”と”分離”」峰岸真琴(ed.)『言語基礎論の構築へ向けて』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. / 沈力. 2023. 「北京語における形態素の認定」沈力(ed.)『言語類型論から見た「語」の本質』東京：くろしお出版. / 沈力・韋彤. 2023. 「連続変調から見た馬山チワン語の語形成」沈力(ed.)『言語類型論から見た「語」の本質』東京：くろしお出版. / 蔡維天 2014. 『从微觀到宏觀—漢語語法的生成視野』, 商務印書館. / 王均. 2007. 「壮语」孙宏开・胡增益・黄行 (ed.)『中国的语言』, 商务印书馆. / 徐通锵. 2005. 『汉语结构的基本原理—一字本位和语言研究』青岛：中国海洋大学出版社.